Lesson 1　Exercises

→教科書 p.11

解答

[1]

1. The cable car **leaves** every half hour from 8 a.m. to 6 p.m.
2. I'm **taking** the next limited express train for Tokyo.
3. I **used to** have a lot of CDs. I **gave** most of them to my cousin.
4. We'll **be taking** a school trip to Kyoto next month.
5. I **didn't [couldn't]** recognize him because he **had changed** a lot.

[2]

1. "Can I help you?" "Yes, **I'm looking for** a present for my mother."
2. I **was still sleeping [asleep]** when my parents **went** out.
3. **We're going to play** tennis tomorrow. If it rains, **we'll go** shopping.
4. This might be a sign that the volcano **is going to** erupt.
5. I **haven't [have not/never] been** absent from school since last April.
6. My aunt **had lived [had been living]** in Paris for three years when I **visited [went to see]** her.

[3]

1. My father always reads the newspaper on the train to work.
2. My mother used to play volleyball, but now she plays golf.
3. I think you will get used to life [living] here soon.
4. My brother has just completed his freshman year at college.
5. I have been using this product for five years.
6. She had traveled to twelve countries by the time she was [became] fifteen (years old).

[1]

1. 列車の出発時刻など確定している予定を表す現在形を用いる。「出発する」は leave を使うが depart でもよい。

   注意・主語が The cable car と三人称単数現在（三単現）なので -s を忘れないようにする。

   ・every half hour「30 分ごとに」は覚えておきたい表現。

2. 近い未来の予定を表す現在進行形を用いると考えて，空所には現在分詞を入れる。「～に乗る」は take を使う。ride も可能だが，take は「その乗り物を選んで，利用する」という意味があるので，ここでは take が適切。

   参考 列車に関する語を紹介すると，express「急行の，高速の」，commuter express train「通勤特急」，express train「急行列車」，rapid train「快速列車」，local train「普通列車」などがある。

3. 「昔は持っていた」は過去のことを表しているが，「そのほとんどをいとこにあげた」とあることから「今はほとんど持っていない」という意味が含まれている。そこで「昔は～した」という意味を表す used to を用いる。2 文目の空所に入る「あげました」は過去の行為なので，「あげる」を表す give の過去形 gave を入れる。

4. 「～することになっている」と，（だれの意志や計画にも関わらない）ほぼ確定した未来の予定を表すときには，未来進行形が用いられる。「旅行に行く」は take a trip と表す。

   別解「旅行に行く」は *make* a trip も可能。ただし「（日程や行き先も計画するなどして）旅行の全体像を作る」というニュアンスがあり，業務上の旅行などに用いることが多い。

5. 「わからなかった」は過去の否定なので didn't[couldn't] を用いる。「彼のことがわかる（⇒彼がどの人か見分けられる）」は recognize him と表す。「彼はすごく変わっていた」は，彼を目にした過去のその時点で，それ以前から変化を遂げ，様相が違っていたことを表しているので，過去完了形の had changed を使う。

[2]

1. 「～を探しています」は，今まさにしている動作を表す現在進行形を用いる。「探す」は look for ～。

   参考「何かお探しですか」は，店員が客に対して話しかける定型表現で，Can I help you? のほかに May I help you? や What can I do for you? などもよく使われる。

2. 「私はまだ寝ていました」が主節，「両親が出かけたとき」が従属節の複文になる。主節は，「両親が出かけたとき」という過去のある時点でしている最中だったことを表すので過去進行形 was sleeping を用い，「まだ」を表す副詞 still を加える。従属節の「両親が出かけた」は過去の動作なので過去形の went を使う。

   別解「寝ている」は，形容詞 asleep を用いて be asleep と表すこともできる。

3. 「（テニスを）するつもりです」は，発話時点の前から

あらかじめ考えていた意図であるとして are going to を用いる。「もし雨なら，買い物に行きます」は意志未来を表す will を用いた we'll go を入れる。

別解・「もし雨なら，買い物に行きます」を雨天の場合に備えてあらかじめ立てていた計画だととらえた場合は，we're going to go でもよい。また，「雨の場合，そうしようとしている」という意味だと考えれば we're going も可。

・「(テニスを) するつもりです」は個人の近い未来の予定なので，We're playing と現在進行形で表してもよい。

4. 「これは，兆候かもしれません」が主節で「その火山が噴火しようとしている（兆候）」が that 節の複文。that 節の「噴火しようとしている」は，何かが起きそうな兆候があり，その兆候に基づく話者の予測なので，be going to を用いる。

5. 「休んだことがない」は，「休む」という行為の〈経験〉が「ない」という意味なので，現在完了形の否定形の haven't been, have not been, have never been のいずれかを使う。

参考・be absent from ～「～を休む」，be present at ～「～に出席する」は学校生活でよく使う表現なので，覚えておく。

・school は，after *school*「放課後」，study at *school*「学校で勉強する」，go to *school*「学校に行く」など，「学ぶ」という本来の目的での利用の場合には冠詞はつけないことに注意する。冠詞をつけるのは，本来の利用目的以外の，単なる場所として述べる場合。

例 Mari's father went to *the* school to speak to her teacher.「マリの父親は，彼女の先生と話すために学校へ行った」

6. 「私がおばを訪ねたとき」が従属節，「おばは３年間パリに住んでいました」が主節の複文。主節は，「私がおばを訪ねたとき」という過去のある時点まで続いていた状態を表すので，過去完了（進行）形を使って had lived または had been living とする。従属節は動作を表す過去形を用いる。「訪ねる」は visit [go to see] で表す。

[3]

1. (s)父はいつも，仕事に行く列車で(o)新聞を(v)読みます。

いつもしている習慣を表しているので，動詞の現在形を用いて表現する。与えられた語句 the train to work「仕事に行く列車」を用いて，以下のように表す。

My father always reads the newspaper on the train to work.

注意 動詞の現在形は原形と勘違いしやすいので，三単現の-s を忘れないようにする。特に，ここで使われている always など，頻度を表す副詞のあとの動詞では三単現の-s を落とす間違いを犯しやすい。

参考「電車［列車］で」を表すのには，前置詞 on を使うのがふつう。

2. (s)母は以前はよく(o)バレーボールを(v)したが，

(s)（母は）今は(o)ゴルフを(v)します。

「以前はよくバレーボールをした」は，今とは違う昔のことを表しているので，〈used to＋動詞の原形〉で表せばよく，「今はゴルフをします」は，現在のことなので，現在形で表す。与えられた語 volleyball「バレーボール」，golf「ゴルフ」を用いて，前半・後半２つの文を接続詞 but で結ぶ。

My mother used to play volleyball, but now she plays golf.

別解 now は文末に置いてもよい。解答例のように，... now she plays golf としたほうが，「今は」という情報が伝わりやすく，昔と今の対比がはっきりする。

注意 過去の習慣や反復動作を表すのに would を用いることもあるが，ここでは，昔と今との対比を表しているので，〈used to＋動詞の原形〉のほうがふさわしい。

3. (o)(s')あなたはすぐにここでの生活に(v')慣れると

(s)私は）(v)思いますよ。

文の述語動詞は「思いますよ」で，それに対応する主語は日本語にはないが，一人称の「私」である。現在のことであるので，現在形を用いる。「あなたはすぐにここでの生活に慣れる」が文の目的語となり，未来のことを表しているので，未来を表す助動詞 will を用いればよい。与えられた語句 get used to「～に慣れる」を用いて，以下のように表す。

I think you will get used to life [living] here soon.

注意・文の述語動詞「思いますよ」は現在形，that 節の中は未来を表す表現と，２つの時制が用いられることに注意する。

・get used to の to は前置詞であるので，うしろには名詞もしくは動名詞を置く。不定詞と間違えやすいので注意する。

・「ここでの生活」を *the* life here と定冠詞をつけて表すと（たとえば南極基地での生活と言う場合など）特別な生活の含みが生じうる。

4. (s)兄は(o)大学の１年目を(v)ちょうど終えたところです。

「ちょうど終えたところ」と，現時点で完了したことを表すので，現在完了形を用いて表す。与えられた語句 complete「終える」，his freshman year「彼の１年

目」を用いて，以下のように表す。

My brother has just completed his freshman year at college.

注意 現在完了形は学習者にとって使いこなすのが難しい表現である。「終えた」という日本語だけ見れば，過去形を使いたくなるが，「ちょうど終えたところ」と，現時点の状況を表しているということを理解する。

参考 freshman は大学の新入生（米では高校の新入生も表す）。２年生は sophomore，３年生は junior，４年生（最上級生）は senior で表す。

別解「大学の」は at college（単科大学／総合大学）の代わりに at university（総合大学）も可。

5. ⓢ私は５年間ⓞこの商品をⓥずっと使っています。

５年間使っている状態が今も続いているので，現在完了形で表す。「使う」は動作動詞であるので，進行形にし，与えられた語 product「商品」を用いて，以下のように表す。

I have been using this product for five years.

別解 use は study や work と同様，ある期間にわたって行われる場合もあり，日常的に「使う」という習慣が５年間続いていると考えれば，現在完了形でも表される。I have used this product for five years.

注意・現在完了進行形を正しく使えているか確認する。
・期間を表す前置詞 for が正しく使えているか，since との使い分けを確認する。

6. ⓢ彼女は15歳までに，12か国にⓥ行ったことがありました。

「15歳」という過去の時点までに，「行ったことがあった」ことを表すので，過去完了形を用いる。与えられた語句 travel to「～に行く」，by the time「～までに」を用いて，以下のように表す。

She had traveled to twelve countries by the time she was fifteen.

別解「15歳までに」は by the time she was 15 *years old* でもよい。15 years で終えるのは誤り。また，「15歳になるまでに」と考えて by the time she *became* [*turned*] fifteen でもよい。

注意 by the time は接続詞なので，あとに主語・動詞を含む節を置くことに注意する。

参考 与えられた語句に travel to があるので，ここではそれを用いればよいが，「行ったことがあった」は had been to でも表される。

Lesson 2　Exercises

→教科書 p.15

解答

[1]

1. You **look** so happy today. Did something good **happen**?
2. This novel **will be translated** into Japanese soon.
3. The fireworks display has **been canceled** because of the strong wind.
4. I **made [cooked]** fried rice **for** my family last night.
5. My shoes and socks **got wet**, so I **took them off**.

[2]

1. We **talked about [discussed]** the problem for hours but **didn't reach** a consensus.
2. We **got stuck [were caught] in** a traffic jam and **missed** our flight.
3. The company **is being investigated by** the local police.
4. My parents **gave me** confidence, and they **made me happy**.
5. Who will **take care of [care for / look after] your cat** while you are away on vacation?
6. I'm **getting along with** my classmates very well.

[3]

1. I overslept this morning and got to school late.
2. Smartphones are widely used all over [around] the world.
3. What is included in this price?
4. Did you send me any emails [send any emails to me] last night?
5. The dog will run away if you leave the door open. / If you leave the door open, the dog will run away.
6. The offer was turned down immediately.

[1]

1. １文目のように主語の状態や属性を表すにはSVCの文を使うことができる。SVCの文での動詞の代表は be 動詞だが，「～そうだ」と〈推測〉の意味とともに表すには look，seem，appear などを使う。look はこれらのうち，そうだと思う度合いが最も高い動詞で，外見の情報を頼りに判断する際に使われる。２文目は，主語は something good「何かいいこと」で，文頭に助動詞 did があることから，空所には動詞の原形がくる。「（いいことが）あった」は「（いいことが）起きた」という意味と解釈して，happen を使う。

   参考・seem は話し手の，おもに主観的な判断で「～と思われる」という意味を表す。appear はおもに客観的判断で「～のように見える」という意味を表す動詞で，堅めの語である。

   ・疑問文でも相手に肯定の答えを想定するときは anything ではなく something を使う。
2. 主語 This novel と，〈変化の結果〉を表す前置詞 into の導く句 into Japanese「日本語に」が与えられていることから，空所には述語動詞「翻訳されるでしょう」がくると判断できる。「翻訳する」動作主はここでは，人であり，This novel はその〈受動者〉，それが主語なので受動態を用い，「～でしょう」という〈推量〉は助動詞 will を用いて will be translated を入れる。
3. 主語の「花火大会（the fireworks display）」と「強風のために（because of the strong wind）」という理由を表す副詞句が与えられているので，空所には述語動詞がくると考える。与えられた has は，その述語動詞「中止になりました」の一部となる。「中止になりました」は，日本語からは時制が判断しづらいが，話し手が，「中止になった（そのため開催されない）」という今現在の情報として述べているものだと判断し，現在完了形の受動態〈have been＋過去分詞〉を用い，been canceledを入れる。

   参考「～のために」という〈理由〉を表すには，owing to ～や due to ～を使うこともできる。
4. 「だれかに何かをあげる［してあげる］」はSVOOか〈SVO＋to[for] ～〉の文で表す。SVOOで使う動詞には buy 型（対象となる人を伴わずとも文が成立する動詞）と，give 型（対象となる人を伴わないと文が成立しない動詞）があるが，make[cook] は buy 型なので，間接目的語（＝人）の前には for を置く。

   参考・fried rice「チャーハン」の動詞 fry は「揚げる，炒める」など油を使って食材を加熱調理する意味を表す。「フライドチキン」は fried chicken。「揚げる」という意味を明確に表す場合は *deep*-fried food「揚げ物」のように deep fried を使う。「炒めた野菜（野菜炒め）」は *stir*-fried vegetables，「目玉焼き」は fried eggs と表す。

   ・「料理する」は make でも表すことができる。cook のほうが，火を使って料理するという意味で用いられる。したがって（×）cook saladとか（×）cook sandwiches とは言わない。
5. 前半は，主語の状態について述べているので，SVCの形で表す。「～になる」という意味の get を用い，get wet とする。後半は，主語は I「私」で「それら（them

(=my shoes and socks)) 」は目的語，「脱ぐ」は述語動詞なので，SVOで表す。「脱ぐ」は take off という群動詞がよく使われる。〈他動詞＋副詞〉の群動詞の目的語の位置は動詞の直後でも副詞の直後でもよいが，代名詞の場合は take them off のように動詞の直後に置く。

[2]

1. 「私たちは～を議論した」という文と「私たちは～には達しなかった」という２つの文を〈逆接〉の接続詞 but でつないで表す。主語はどちらも「私たち (we) 」なので後半では省略する。前半の文「問題を議論した」は，「問題」を目的語とするSVOで表し，後半の文「意見の一致に達する」も，動詞 reach を用いて，reach a consensus とSVOで表す。日本語の感覚からは「～に達する」は to を使って表すと考えがちだが，reach は他動詞なのでSVOとなる。「議論する」は talk about か discuss。talk は自動詞なので about が必要になるが，discuss は他動詞なので，目的語 the problem の前に前置詞は不要。使う動詞が自動詞か他動詞かを常に意識することが重要である。

   参考・reach を用いた類義表現に，*reach* an agreement「合意に達する」，*reach* the conclusion that ～「～という結論に達する」などがある。

   ・for hours は「何時間も」。時を表す名詞の複数形を使った表現にはほかに，for years「何年も」，for ages「長い間」などがある。

2. 「私たちは～につかまった」という文と「私たちは～に乗り遅れてしまった」という２つの文を〈順接・連続〉の接続詞 and でつないで表す。主語はどちらも「私たち (we) 」なので後半では省略する。前半の「(交通渋滞) につかまる」は get stuck in で表す。後半「飛行機に乗り遅れてしまった」は「飛行機を逃した」と解釈して「(私たちの乗る) 飛行機 (の便) (our flight) 」を目的語とするSVOで，動詞 miss「～を逃す」で表す。

   別解「(交通渋滞) につかまる」は be caught in と受動態で表すことも可能。動詞 get は不完全自動詞でSVCの文型で主語の状態を述べるのに使う。主語の状態を表す補語 (C) には stuck という形容詞用法の過去分詞を使い，受動の意味を表す。

   参考「(電車などに) 乗り遅れる」は miss，「間に合う」は catch を使う。

3. 文の述語動詞は「(捜査を) 受けているところだ」と判断されるが，与えられた動詞 investigate「～を捜査する」を使うのであれば，動作主は「地元警察」，受動者は「その会社」となる。主語が受動者「その会社 (the company) 」なので，受動態にし，「捜査されているところだ」を表すとわかる。「～されているところだ」なので，受動態の現在進行形とし，〈be 動詞＋being＋過去分詞〉の形を用いる。受動態の動作主は，by を使って表す。

   参考 local は「その土地の，地元の，その地域に特有な」という意味で，「いなか」の意は含まれない。

   例 a local paper「地方新聞」，a local call「市内通話」，a local university「地元の大学」，local taxes「地方税」，a local train「普通列車，各駅停車の電車 (地元に根付いた，地元の人が利用する電車という意味で local が用いられていると考えられる) 」

4. 前半の文は，「だれかに何かをあげる」という意味なのでgive「与える」を用いたSVOOで表し，後半は，「だれかを～の状態にする」という意味の文なので，SVOCで表す。どちらも主語は「両親 (my parents) 」。前半は，間接目的語 (＝人) が me，直接目的語 (＝もの) が confidence。後半の「私を幸せにする」は動詞 make を用いて，目的語が me，補語が happy なので，made me happy とする。

5. 「休暇で留守にしている間 (while you are away on vacation) 」は時を表す副詞節で，「だれがあなたの猫の世話をするのですか」の部分が主節となる。述語動詞となる「世話をする」を表す動詞には，群動詞 take care of, care for, look after などの表現があるが，take care of は一時的な世話という意味で用いられ，ここでは最も合う。care for は，自分自身で面倒が見られない人や物などを世話するという意味。

   参考「留守にする」は be away のほか be out で表すことも可能。

   例 Joan *is out* on a business trip.「ジョアンは出張で不在にしております」

6. 文の述語動詞「～と仲よくやっている」が空所に入ると考えられ，群動詞の get along with がこれには最も適切な表現である。I'm と be動詞が与えられているので，現在進行形で使われていると判断し，getting along with とする。

   参考・現在形で get along with と表すこともできるが進行形のほうが「日々うまくやっている」という時間の流れを感じさせることができる。

   ・私たち日本人は「クラスメート」を「同じクラスの友だち」という意味で使っているが，アメリカの学校では個人個人が異なった授業をとるので，日本の場合のような１年間同じクラスという感覚がない。したがって，classmates という語はむしろ，「同期生，同期卒業生」という意味で使うのが一般的である。

[3]

1. (ⓢ私は) 今朝はⓥ寝坊して，学校にⓥ遅刻してしまった。

文の主語は日本語にないが，話し手であるので，「私」とする。述語動詞は，「寝坊して」「遅刻してしまった」と2つあるので，それぞれを節にして接続詞 and でつないで一文にする。与えられた語 oversleep は「寝坊する」という自動詞である。もう１つの語，動詞 get は自動詞で「着く」の意味がある。そこで，「学校に遅刻してしまった」を「学校に遅く着いた」と考えて英文を作るとよい。「～に着く」と場所を表すには前置詞 to を用いる。以上より，以下の英文で表す。SVが and の前後で２組ある文（and のあとのSは省略されている）。

I overslept this morning and got to school late.

注意・Lesson 1 で学習した時制を適切に活用して書けているか確認する。

・「着く」の意味の get は自動詞なので，前置詞 to を忘れないよう注意する。

・「遅く」は副詞 late で表現できる。副詞というと語尾が-ly になるものが多いが，lately は「最近は」と別の意味を表す語なので，間違えないようにする。

参考「着く」を表す動詞は，get のほか，arrive，reach があるので，あわせて押さえておくとよい。このうち get とarrive は自動詞，reach は他動詞である。arrive は場所を表す場合には前置詞 at や in を用いる。

2. ⓢスマートフォンは世界中で広くⓥ使われています。(受動態)

文の主語は「スマートフォン」，述語動詞は「使われています」である。主語の「スマートフォン」が「使われる」と受動の意味なので，受動態〈be動詞＋過去分詞〉で表現する。現在の状態を表しているので，be動詞は現在形にし，与えられた語 widely「広く」を用いて，以下のように表す。

Smartphones are widely used all over [around] the world.

注意・能動態にすれば主語は people「人々」となるが，それはわかりきった情報であり，話題の焦点はスマートフォンなので受動態で表すのが適切であるということを理解したい。

・文の主語「スマートフォン」は，日本語からは単複の判断がつかないが，「広く使われている」ので，複数形で表すのが適当である。

・widely「広く」は副詞なので文末に置いても間違いではないが，修飾する動詞の近くに置くほうがわかりやすい。解答例のように，are widely used と受動態のbe動詞と過去分詞の間に置くこともある。

3. この価格にはⓢ何がⓥ含まれていますか。(受動態)

「何」が「含まれる」と受動の意味なので，受動態を用いる。主語は「何」なので，疑問詞 what を主語として文を作る。与えられた語 include は他動詞で「～を含む」という意味なのでそれを用いて，以下のように表す。

What is included in this price?

注意・この文もやはり，「価格に含む」動作主は重要な情報ではなく「含められているもの」のほうに焦点が置かれているので，受動態で表すのが適当である。（あえて能動態で表そうとすれば，主語は they あるいは you となる。）

・疑問詞 what は主語になる場合と目的語になる場合があるので注意する。さらにここでは受動態の文なので，正しく英文を構成できているか確認する。

例 What were you given as a prize?「賞品として何をもらったの？」→ What が目的語。you が主語。You were given ＿＿ as a prize. がもとになっている。

4. 昨夜，(ⓢあなたは) ⓞ私にⓞメールをⓥ送りましたか。

文の主語は日本語にはないが，文脈から「あなた」とわかる。「私に」「メールを」と２つの要素があるので，動詞のあとに「（人など）に」「（ものなど）を」の語順で続けてSVOO文型で表現する。与えられた語 any emails を用いて，以下のように表す。

Did you send me any emails [send any emails to me] last night?

別解 目的語を２つ置くSVOO文型は，〈SVO＋to [for]＋名詞〉のSVO文型でも表される。この場合，send は give 型なので Did you send any emails *to* me last night? となる。

注意 日本語でいうカタカナ語の「メール」は email を指す。単に mail とすると一般的に「手紙」「郵便物」の意味となるので，注意する。

参考 email は electronic mail の略で，e-mail，E-mail と表記することもある。

5. (ⓢあなたが) ⓞドアをⓒ開けたⓥままにしておくと，ⓢ犬がⓥ逃げてしまうよ。

「～すると」という条件を表しているので，接続詞 if を使う条件節で表す。if 節の主語は日本語にないが，文脈から「あなた」であると考える。与えられた leave は，あとに目的語と補語を続けて「OをCのままにしておく」という意味で使われるので，その形で文を作る。主節は，与えられた the dog を主語として文を作り，

以下のように表す。

The dog will run away if you leave the door open. / If you leave the door open, the dog will run away.

別解 if 節と主節はどちらを先に置いてもよい。if 節を先に置く場合は，主節の前にコンマを置く。

注意 主節はこれから起こるかもしれないことを表しているので主節では未来を表す助動詞 will を用いるが，条件を表す if 節内では，未来のことも現在形で表すということを再確認する。

参考 「逃げる」はほかにも escape という動詞があるが，ここでは，「犬が走ってどこかに行ってしまう」というイメージであるので，run away という表現がぴったりである。escape は「(閉じ込められた所から) 逃げる」「(危険な状態などから) 逃げる」といったイメージ。

6. (S)その申し出はすぐに(V)却下されました(受動態)。

「申し出」が「却下された」と受動の意味を表すので，受動態で表現する。「却下する」は与えられた語句 turn down を用いる。群動詞は受動態にする場合，セットのまま用いるということに注意して，以下のように表す。

The offer was turned down immediately.

別解 「申し出」は offer のほか，proposal や suggestion などでも表せる。

注意 ここではだれが「却下した」のかは問題でなく (示されておらず)，「申し出が却下された」ことが重要な情報であるため，受動態が適切。

Lesson 3　Exercises

→教科書 p.19

解答

[1]

1. I **can play** the trumpet, but I **can't read** music.
2. Luckily, we **were able to get** tickets for the concert.
3. We **have to make** efforts to reduce waste.
4. You had **better apologize** to her immediately.
5. I think your idea **would be** practical.
6. We **would** often **play** hide-and-seek in this park when we were children.

[2]

1. This question **may [might] seem (to be) very easy**, but actually it's not.
2. **What time should I arrive at** the airport for my flight?
3. My dog **won't go for a walk** with my father.
4. I **may [might] have met** her somewhere before, but I **can't recall** where.
5. They **cannot [can't] have gone** so far in such a short time.

[3]

1. That man may [might] be a member of the volunteer group.
2. We must [have to] respect other cultures and traditions.
3. He should be practicing his speech somewhere in school.
4. I will do my best to achieve my dream.
5. He must have remembered my phone number incorrectly.
6. We should have made a reservation [booking] in advance.

[1]

1. 前半は「吹くことができる」，後半は「楽譜を読むことはできない」を，それぞれ〈能力〉を表す can, can't を用いて英語にする。楽器を演奏するという意味の動詞には，play the flute「フルートを吹く」，play the guitar [piano]「ギター［ピアノ］を弾く」や play the drums「ドラムをたたく」というように，すべて play を使う。

   参考 *read* music は「楽譜を読む」。music には「楽譜」という意味があり，play without *music*「暗譜で演奏する」などの表現もある。

2. 「手に入れることができた」という過去に可能だったことを表すには was / were able to を用いる。can の過去形 could はそれをする能力があったことを表すのでここでは使えない。we *could* get tickets for the concert とすると「（手に入れようとしたなら）できた」という意味になってしまう。

   参考「コンサートのチケット」は a ticket *for* a concert と表す。（×）a ticket *of* a concert とはしない。

3. 「（むだを減らす努力）をしなければならない」という〈義務〉を，have to を用いて表す。「～する努力をする」の make efforts [an effort] to ～ という表現を覚える。

   参考 空所の数から must は入らないが，制約がないなら must make efforts とすることもできる。

4. 「（すぐに彼女に）謝らないといけないよ」という相手に行動を促す〈助言・忠告〉の意味合いを，had better を使って表す。

   注意 apologize は自動詞なので，「（人）に謝る」とするときは前置詞 to が必要。他動詞と間違えやすいので注意する。

5. 「（実行可能）だろうと思います」を，現時点の〈弱い推量〉を表す would を用いて表す。

   参考 practical は「現実的な」という意味で，S is practical. で「Sは実行可能であり，実行できうる」という意味になる。同じ内容を I think that it's possible to put your idea into practice. などと表すこともできる。

6. 「（子どもの頃）よく（かくれんぼ）をしたものでした」という〈過去の習慣〉を，would を用いて表す。「子どもの頃」は 本問のように when we were children と副詞節で表すこともできるが，in one's childhood と副詞句でも表せる。

   参考 ・子どものする遊びとして「かくれんぼ」は代表的なもので世界各国で同様のルールで遊ばれている。英語では hide-and-seek と言う。そのほか，よく行われている遊びを表す英語としては，「缶蹴り（kick the can）」「ままごと（play house）」，「なわとびをする（jump [skip] rope, play with a jump rope）」，「キャッチボールをする（play catch）」など。
   ・西洋の絵画作品で，その時代に行われていた遊戯を描いた有名なものに，『子どもの遊戯』（ペーテル・ブリューゲル作，1560年）がある。250人以上の子どもが83ほどの遊びを行っている。

[2]

1. 「～かもしれない」という〈推量〉の意味合いは，may

もしくは might で表す。seem は不完全自動詞で，うしろに補語をとり（SVC），seem easy とする。seem *to be* easy と表すこともできる。

2. 空所には「私は何時に（空港に）到着すべきですか」に相当する英語が入る。〈義務・必要〉（～すべきだ）は should を使って表す。

別解「空港に到着する」は *get to*[*reach*] the airport と表してもかまわない。

参考・〈義務〉は must や have to，need などで表すこともできるが，「～しなければならない，～する必要がある」のように，もとの日本語よりも強い意味合いになってしまう。must はまた，堅い表現で好まれ，日常の会話ではあまり使わない。

・「飛行機に間に合うために」は to *catch* my flight や to *be in time for* my flight とも表せるが，*for* my flight を用いるのが端的でよい。

3. 「（犬は）散歩に行こうとしない」の「（～は）…しようとしない」は，現在における主語の〈強い否定の意志（強い拒絶）〉の won't を用いて表す。「散歩に行く」は go for a walk。日常生活で頻繁に使う成句である。

参考 walk は She *walks* her dog every evening.「彼女は毎晩犬を散歩させる」のように他動詞としても使う。

4. 「（彼女には以前どこかで）会ったかもしれない」という過去の〈推量〉は，〈may [might]＋have＋過去分詞〉で表す。「（どこなのか）思い出せない」は，「思い出す」recall を用いて現在の〈可能〉の否定can't [cannot] を使う。

参考「思い出す」を表す類語には remember, recollect などがある。remember は「（過去のことを）思い出す」「（過去のことを）覚えている」「（あとで）忘れずに～する」などの意味を持ち，最も一般的な語。recall は，意識的に過去の記憶を呼び戻すという意味合いの語で，堅めの表現。recollect は，過去の記憶をゆっくりとつなぎ合わせるという意味合いを持ち，これも堅めの語。

5. 「（彼らがそんなに遠くへ）行ったはずがない」という，過去の〈推量〉は，〈cannot [can't]＋have＋過去分詞〉（～したはずがない）で表す。

[3]

1. (S)あの男性は(C)そのボランティアグループの一員

(V)かもしれない。（推量）

「～かもしれない」と〈推量〉を表すには助動詞may を用いる。与えられた語句 the volunteer group「ボランティアグループ」を用いて，以下のように表す。

That man may [might] be a member of the volunteer group.

別解「～かもしれない」を表す助動詞は，may のほか，過去形の might を使ってもよい。might は過去形であるが，過去の意味にはならないので注意する。

注意・「～の一員」には，a member of ～を使う。

・volunteer はカタカナ語の発音にならないよう注意する。アクセントにも注意。

2. (S)私たちは(O)ほかの文化と伝統を

(V)尊重しなければならない。（義務）

「～しなければならない」という〈義務〉を表すには助動詞 must もしくは have to を用いる。与えられた語 respect「～を尊重する」を用いて，以下のように表す。

We must [have to] respect other cultures and traditions.

別解 must の代わりに have to を用いても通じるが，話し手の意志は弱まり，外的要因や客観的拘束が加わったので生じた義務というニュアンスも含まれうる。

注意「ほかの文化と伝統」は「生活地域や背景によってさまざまに異なる文化や伝統」の意味で複数あるはずなので，複数形で表す。日本語からは，単数か複数かの区別がつかないので，表すべき意味をよく考えて選択する。

3. (S)彼は学校のどこかで

スピーチの練習をしているはずだ。

（→(O)スピーチを(V)練習しているはずだ）（当然の推量）

「～はず」と〈当然の推量〉を表すには助動詞 should を用いる。また，「（今）練習している」と現時点で進行中の動作を表しているので，助動詞のあとに進行形を続ける。与えられた語句 his speech「彼のスピーチ」，in school「学校で」を用いて，以下のように表す。

He should be practicing his speech somewhere in school.

注意 助動詞のあとに進行形を正しく続けられているか確認する。進行形を使わず should practice とした場合との違いも考えてみるとよい。

4. (S)私は（自分の夢の実現のために）

(V)ベストを尽くします。（意志）

「～します」と〈意志〉を表すには，助動詞 will を用いる。「自分の夢の実現のために」は，与えられた語

句に to achieve があるので，「自分の夢を実現するために」と考え，不定詞を用いて表せばよい。よって，以下のように表す。

I will do my best to achieve my dream.

別解「自分の夢の実現のために」は，不定詞で to achieve ～とするのが一般的で，それで十分伝わるが，目的を表す in order to や so as to を使ってもよい。

I will do my best in order to [so as to] achieve my dream.

注意 do one's best「最善を尽くす」は頻出表現であるので，覚えておく。

参考 achieve は「～を達成する」の意味で，dream のほか，goal を目的語に置いて「目標を達成する」という表現もよく使われる。ここでは achieve が与えられているのでそれを使えばよいが，「夢を実現する」は *realize* one's dream や *fulfill* one's dream，*make* one's dream *come true* といった表現もできる。

5. ⓢ彼はⓞ私の電話番号を間違ってⓥ覚えていたにちがいない。(過去に対する確信)

文の述語動詞「覚えていたにちがいない」は，過去のことに対する〈確信〉を表しているので，〈must have＋過去分詞〉の形を使う。与えられた語 incorrectly「間違って」を用いて，以下のように表す。

He must have remembered my phone number incorrectly.

別解 やや難しい語にはなるが，「～を暗記する」を意味する memorize を用いてもよい。より正確な表し方と言える。

6. ⓢ私たちは前もってⓥ予約すべきだった。(過去に対する後悔)

「予約すべきだった」と，過去のことに対する〈後悔〉の気持ちを表しているので，〈should have＋過去分詞〉の形を用いる。与えられた語に make があることから，「予約する」は make a reservation[booking] の表現を思いつきたい。

さらに，与えられた語句 in advance「前もって」を用いて，以下のように表す。

We should have made a reservation[booking] in advance.

注意 make a reservation[booking]「予約する」や in advance「前もって」は覚えておきたい表現。

参考・動詞として使う book は *book* a hotel room のように他動詞としても *book* in advance のように自動詞としても，使うことができる。予約台帳のようなものに名前を書いてもらい記録を残すイメージで，ホテルの予約などに用いる場合が多い。

・動詞 reserve は「～を予約する」という意味で，*reserve* a table のように他動詞として使う。

Lesson4　名詞と限定詞　Exercises（P27）

解答・解説

赤→解答

黄色のハイライト→解説

緑のハイライト→補足事項

［１］日本語の意味に合うように，（　）に適語を入れなさい。

1. 父はエンジニアで，自動車会社で働いています。

My father is (an) (engineer) and works for (a) (car) (company).

＊engineer と car company はどちらも可算名詞なので，不定冠詞（an/a）を付ける

2. そのイベントに関する情報は何か見つかりましたか。

Did you find (any) (information) about (the) (event)?

＊information は不可算名詞。「情報は何か」の「何か」は，疑問文や否定文で「いくらかの」を表す「any」を使う。「そのイベント」は特定できるものなので「the」を付ける

3. もっとケーキを召し上がりませんか。

Would you care for (some) (more) (cake)?

～を望む・勧める

＊切り分けるケーキは不可算名詞の扱いをする。疑問形ではあるが，ある程度の量が確実にある場合には「some」を使う

4. 私は学校の図書館からこの本を借りました。

I borrowed (this) (book) from (the) (school) (library).

＊どの学校の図書館なのかが分かると判断されるので，「the」を付ける

5. スタッフのメンバーはそれぞれ，自分の得意分野を持っています。

(Each) member of the (staff) has his or (her) own specialty.

S　V

＊each＋名詞の単数形。動詞の部分が「has」になっていることにも注目する。

［２］日本語の意味に合うように，空所を埋めて英文を完成させなさい。

1. 今朝の朝食は，パンと牛乳でした。

I had (some) bread and milk for breakfast this morning.

＊bread も milk もどちらも不可算名詞なので複数形にしないこと。ある程度の量を表す「some」を付けてもよい。breakfast は通常，冠詞(a/an/the)を付けない。

2. 寝る前に宿題をしなければなりません。

I have to do my homework before going to bed.

＊go to bed で「就寝する」の意味。bed そのものをイメージしているわけではないので冠詞は使わない

3. 新鮮な空気が入ってくるように，窓を開けてもらえますか。

Can you open the window(s) so we can get some fresh air?

＊会話文として，どの窓か聞き手にも判断できるので「the」を付ける。air は不可算名詞。some air は一定量の空気。

4. その競技場を建設するのに，どのくらいのお金と時間がかかりますか。

How much money and time will it take to construct the stadium?

＊money と time は不可算名詞。時間とお金について尋ねるときは how much～?で聞く

5. これらの温室を照明するのには，たくさんの電気が必要です。［ greenhouse ］

A lot of electricity is needed to light these greenhouses.

＊「electricity」は不可算名詞なので，「たくさんの電気」と表現する場合は「a lot of」を使う。「温室」の意味の「greenhouse」は可算名詞

6. 手荷物はいくつお預けになりますか。［ piece / luggage ］

How many pieces of luggage do you want to check in?

＊luggage は不可算名詞。「いくつの荷物？」と疑問文で尋ねる場合は「how many pieces of luggage～?」と，「pieces」を複数形しにて尋ねる

［ 3 ］［ ］内の語句を使って，日本語の意味に合う英文をつくりなさい。

1. 妹はうちの裏庭で子猫を見つけた。［ kitten / backyard ］

My sister found a kitten in our backyard.

＊特に「何匹」との情報がないので「1 匹の子猫」であると推測する。なので，不定冠詞の「a」を付ける。

2. 結果は電話かメールでお知らせいたします。［ we / inform / of ］

We will inform you of the result by phone or (by) email.

inform A of B 「A に B を知らせる」

＊「結果」は話してと聞き手の共通認識のものと考えられるので冠詞の「the」を必ず付ける。「電話かメールで」と，手段を表す場合は冠詞を付けない

3. 何かお手伝いすることが必要でしたら，連絡してください。［ assistance / contact ］

If you need any assistance, please contact us(me).

→do not hesitate to contact us /feel free to contact us でも ok

＊「assistance」は不可算名詞なので複数形にしないこと。「contact」は他動詞なので「contact with us」としないこと！

4. 彼はグラスを 2 つと水を 1 本持って来た。［ bring / bottle ］

He brought two glasses and a bottle of water.

＊水は不可算名詞なので「水を 1 本」と表現する場合は「a bottle of water」とする

5. 玄関では靴を脱いで，中ではスリッパを履いてください。［ wear / inside ］

Please take off your shoes at the entrance and wear slippers inside.

脱ぐ ⇔ 身に着ける（put on）

＊「あなたの靴」なので，所有格の「your」を付けること。「玄関」は双方の共通認識のあるものなので「the entrance」と冠詞をつけること。「shoes」と「slippers」は通常複数形で表す

6. どの国にもその国特有の文化と独自の習慣があります。［ have / own / unique ］

Every(Each) country has its own culture and unique customs.

＊「どの～も」は every(each) ＋ 単数名詞で表現する。「custom」は可算・不可算名詞のどちらでも使われるが，１つの国でも様々な習慣があるので，ここでは複数形を用いる。同じ「習慣」の意味を持つ「habit」は，個人的な習慣の場合に使われる単語なので，ここでは「custom」を使う